

ファクトリーサイエンティスト協会 設立企画書

1. 設立趣意

現在、日本の約 420 万の事業者の内、中小規模事業者はおよそ 99.7 パーセント、雇用の約 70%を占め、まさに日本の産業の根幹である。しかし、中小企業白書によると、108 兆円の製造業付加価値額に占める中小企業割合はわずか 53%であり、ものづくり中小企業の従業員の 1 人当たり付加価値額は半分以下にとどまってしまう。

そのひとつの理由が、IT 投資が難しいことによるデジタル化の遅れだ。少ない経営資源から大規模な IT システムを導入することは中小企業には難しい。多くの中小企業は 20 年前と同じように従業員の努力によってさまざまな課題を解決しながら、なんとか足元の仕事をしている状況でありその頃から労働生産性は横ばいとなってしまう。

しかし、テクノロジーの普及により、自社でデジタル化に挑戦し、労働生産性を高める企業も現れ始めた。クラウドサービスの普及によって、大規模ではないが、自社に最適な IT システムの自作・導入を行う。中小企業でも自らの出来る範囲からデジタル化を進めることで、少額投資から生産性を高めることが可能な時代が訪れたのだ。

さらに、生産性だけでなく、中小企業の競争力を高めるには、デジタル化によって捻出した時間を更なる付加価値を生み出す取組みに費やしていくことが重要だ。工程の改善だけでなく、新たな顧客の開拓や、新たな価値を生み出すための研究開発に割くことで、ものづくり中小企業は競争力を増し、それぞれが武器を持って戦いうる状況を生み出すことができる。

そんな世界を、地に足のついた取組みから牽引する存在が、ファクトリーサイエンティストだ。IoT デバイスや計測機器、装置などを使って現場から適切な方法でデータを取得する「データエンジニアリング力」、収集されたデータや、他のデータと照らし合わせて有用な情報を紡ぎ出す「データサイエンス力」、そして得られた情報を元に戦略を練り上げ、データを説得材料にビジネスに活用する「データマネジメント力」。これら 3 つの能力を兼ね備えた人材が、これからのものづくり中小企業を盛り上げる存在となる。

ものづくり産業を牽引する人材を育成し、その重要性を全国へと普及させる。更には多くの工場が自社のやり方を共有し、切磋琢磨しながら助け合いながら、競争力を増していく。そのような世界を目指す活動の拠点として、ファクトリーサイエンティスト協会を設立する。

2. 活動目的

- ① 合宿や通信・遠隔講座を始めとした、新たなファクトリーサイエンティストの育成を行う
- ② ファクトリーサイエンティストの認知度や社会的地位を向上させるための、資格化やセミナーを始めとした啓蒙活動を行う
- ③ 中小製造業全体の活性化に向けて、デジタル化による中小企業の課題解決や、新たな経営支援に資するための研究活動を行う
- ④ ファクトリーサイエンティストの普及自体がもたらす社会的メリットを、日本の産業競争力向上や、人材育成の観点から発信する
- ⑤ 将来的な活動方法、及び活動内容について議論・研究を行い、行政・民間を問わない関係者の巻き込みによる日本全国・ひいては海外への拡大を目指す

3. 活動予定

- ① 育成に関する調査・研究、及び育成講座（2020年4回開催予定）の準備、及び実施
- ② FabLab や e-learning を活用した通信・遠隔講座の開設準備、その実施
- ③ 10年後に約40,000人を目標とした、ファクトリーサイエンティスト認定制度の立ち上げ
- ④ 会員に向けた継続的なサポート、情報交換の基盤となるオンラインのコミュニティ形成
- ⑤ 中小企業の課題解決に向けた提言、ケーススタディの出版、WEBサイトを通じた情報発信
- ⑥ 啓発セミナーや講演、勉強会やシンポジウム等のイベントの企画・開催
- ⑦ 今後の協会活動・事業内容についての協議

4. 理事体制

代表理事	大坪 正人	由紀ホールディングス株式会社 代表取締役社長
理事	長島 聡	株式会社ローランド・ベルガー シニアパートナー グローバルイノベーションオフィサー
理事	田中 浩也	慶應義塾大学環境情報学部 教授
理事	植原 啓介	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
理事	播磨 崇	特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 会長
専務理事	竹村 真郷	株式会社タケム研 代表取締役社長